



▲GISについて学ぶ生徒たち

地理情報を便利に活用してみよう
北海道登別明日中等教育学校GIS特別授業

7/19

7月19日、市は北海道登別明日中等教育学校で、同校の3回生を対象に、GIS（地理情報システム）の知識習得や利活用のきっかけづくりを目的とした特別授業を行いました。

特別授業には、市が活用するGISの構築事業者のE.S.R.I.ジャパン(株)から講師を招き、生徒たちはGISの基礎知識や利用法について学んだほか、実際にGISのアプリを使って、市内の地域情報を地図上で可視化するデータ分析を体験。視覚的で分かりやすく情報が得られるGISの便利さに、生徒たちは感心していました。



▲登別小学校で相撲を体験する子どもたち

登別市へようこそ
ふるさと豆記者交流事業

7/30

7月30日、登別小学校で、姉妹都市小学校交流事業・ふるさと豆記者交流事業（姉妹都市小中学校交流事業実行委員会主催）を開催しました。

この事業は、登別市と姉妹都市である宮城県白石市、神奈川県海老名市の3市の小学生が、学校間の交流を通して友好を深めることを目的に実施しています。今年、白石市から6人、海老名市から4人の小学生が登別市を訪問。子どもたちは、それぞれのまち、学校の魅力や特色などの紹介、登別市内の施設見学などを行い、たくさんのお土産を作りました。

5期目の船出、決意新たに
登別市長選挙 当選証書付与式

7/29

7月29日、市選挙管理委員会は、7月21日告示の登別市長選挙で5期目の当選を果たした現市長の小笠原春一氏に、当選証書を付与しました。

和田委員長から当選証書を手渡された小笠原氏は「初心を忘れず、1日1日を大切にして重責を担っていく覚悟。人口減少問題・消滅可能性自治体からの脱却、環境問題・大規模な自然災害への対応など、深刻な課題が待ち受けているが、10年後、20年後の具体的な明るい未来が想像できるように」と5期目の決意を語りました。



▲和田委員長から当選証書を受け取る小笠原氏

作って楽しむ夏休み
郷土資料館「夏休みワークショップ」

8/1・2

8月1日・2日、郷土資料館は小学生以上を対象に夏休みワークショップを開催し、1日のペットボトルを使った風車作りやゴム動力のスクリー船作り、2日の万華鏡作りに、合わせて19人が挑戦しました。

初日のスクリー船作りでは、ペットボトルの船体に針金をグルーガンで取り付けるなど難しい作業もありましたが、郷土資料館ボランティアグループ「SLG」の皆さんの手ほどきを受け全員が見事に完成。屋外の池での試運転では、苦勞して完成させた船を浮かべ競争をするなどして、夏休みのひとときを楽しんでいました。



▲苦勞して完成させたスクリー船の出航